

Ⅲ. ダイバーシティ事業の 活動報告

① 連携体制の推進

①-1 | ダイバーシティ連携推進会議名簿・会議議事

名簿

(令和3年1月末日現在)

機 関 名 等		氏 名	備 考
国立大学法人 山形大学	学長	玉手 英利	
	理事・副学長	小島 浩孝	第1号委員 議長
	チーフ・コーディネーター・准教授	井上 栄子	第2号委員
大日本印刷株式会社 研究開発センター	センター長	古川 智彦	第3号委員
	研究企画管理本部・部長	大野 浩平	第3号委員
	パターンニング製品研究開発本部	桑原 尚子	第3号委員
山形県立大学法人 米沢栄養大学	学長	阿部 宏慈	第4号委員
	健康栄養学部・学部長	大和田浩子	第4号委員
	総務企画課・法人企画専門員	鈴木 慎一	第4号委員

【参考】

山形大学ダイバーシティ連携推進会議規程（平成27年8月5日制定）

- ① 第1号委員 山形大学男女共同参画推進室米沢分室規程に定める分室長
- ② 第2号委員 山形大学男女共同参画推進室米沢分室の職員 若干人
- ③ 第3号委員 大日本印刷株式会社研究開発センターの職員 若干人
- ④ 第4号委員 山形県立米沢栄養大学の職員 若干人
- ⑤ 第5号委員 その他推進会議が必要と認める者

会議議事等

(令和3年1月末日現在)

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (連携型)に係る案件	ダイバーシティ 持ち回り会議	通 知
令和2年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ 事業(連携型)事業計画(案)について	4月10日	5月11日
第1回ダイバーシティ連携推進会議(オンライン)の開催	6月22日	5月29日
令和1年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ 事業(連携型)事業結果について	—	6月22日
令和2年度事業計画について		6月22日
事業終了に伴う規程・要項の改廃について		6月22日
令和2年度JSTプログラム「ヤマガタ 夢☆未来 Girlsプ ロジェクト」の採択について	—	6月22日

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)に係る案件	ダイバーシティ持ち回り会議	通 知
ライフイベントによる研究中断からの復帰への研究費支援申請の審査結果について	—	6月22日
女性代表共同研究支援の採択について	—	6月22日
「東北ブロック南東北会議」リーフレットの作成について	—	6月22日
外部資金獲得セミナーの開催について	—	8月17日
英語論文の書き方セミナー開催について	—	8月26日
令和2年度3機関合同シンポジウム「ダイバーシティ事業の成果報告」開催について	—	9月18日
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)事業に係る規程・要領の廃止について	10月16日	11月5日
令和2年度活動報告書の作成について		12月4日
令和2年度外部評価委員会(持ち回り)の開催について	12月2日	12月21日
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)事業 訪問調査(オンライン会議)実施について	—	12月3日
第2回ダイバーシティ連携推進会議(オンライン)の開催	1月27日	

第1回 ダイバーシティ連携推進会議 議事

日 時 令和2年6月22日(月) 12:00~13:10

場 所 オンライン会議

I 協議事項

- 1 令和2年度事業結果説明書・事業計画書(3機関)
- 2 年間計画について
- 3 事業終了に伴う規程・要領の改廃について
- 4 今後の取組について

II 報告

- (1) 今後の予定、JSTの訪問調査・終了報告作成スケジュールなど
- (2) 各機関より

III その他

第2回 ダイバーシティ連携推進会議 議事

日 時 令和3年1月27日(水) 15:30~16:00

場 所 オンライン会議

I 協議事項

- 1 事業終了報告について
- 2 今後の連携の継続性について

II 報告

各機関より

② ネットワーク

②-1 | 山形大学COI(フロンティア有機システムイノベーション拠点)

山形大学では25の参画機関(企業・高等教育機関 平成31年2月1日時点)と協力し、平成27年にJSTセンターオブイノベーション(COI)プログラムに採択された。この事業は10年後を見通した革新的な研究開発課題を特定し、革新的なイノベーションを産学連携で実現し続け実用化を目指すための「イノベーションプラットフォーム」を整備することを目的としている。有機ELや生体センサを軸に、地域に根ざし「生活イノベーション」の実現を目指すJST事業(～2021年)であり、2回連続で「S」評価を得ており、女性・若手活躍が期待されている。本ダイバーシティ事業は、平成29年度より事業連携をしてきた。

事業後半に入り、本事業はCOIとの連携を強化し、「有機エレクトロニクスを活用した未来の生活創造への女性研究者の参画」という研究テーマを実践し、これまでの3機関の研究成果の社会実装と地域還元を加速している。COI連携において、本事業は「地域連携プラットフォーム会議」を担当しており、COI事務局や若手連携の協力し、健康で豊かな未来の生活創造をめざした地域との情報交流の場を提供し、米沢市健康長寿市民会議などの健康で豊かな地域づくりへ協力している。

今年度は、COIと共催し、7月に地域連携プラットフォーム会議、11月に3機関合同シンポジウムを開催し、昨年と同様にCOI若手・女性研究交流会を開催した。社会実装会議を4回開催(オンライン)し、多様な分野の女性研究者が参加してCOIとの共同研究を推進した。また、地域連携プラットフォーム会議では、昨年度に引き続き、「小野川のまちづくり」をテーマに開催し、小野川温泉での睡眠実証研究が12月から開始されるなど、顕著な成果が見られた。

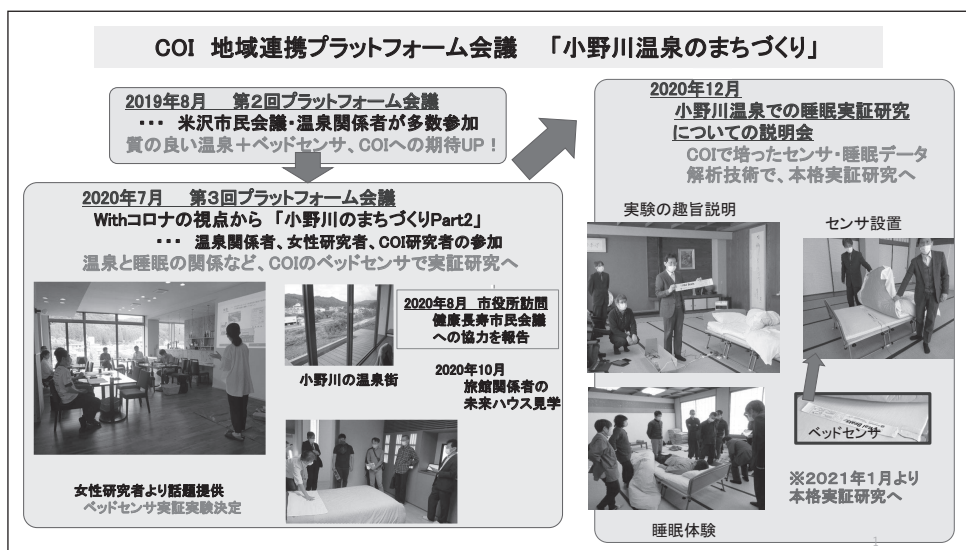


図1 地域連携プラットフォーム会議の活動

②-2 | 大学コンソーシアムやまがた「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」

本事業の成果を県内15の高等教育機関に波及し、県内のダイバーシティを推進することを目的に、平成30年4月1日に大学コンソーシアムやまがた「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」を山形大学が中心となって設立し、本事業を公開し、交流を行っている。

今年度の活動内容は、ダイバーシティ推進ネットワーク会議を2回(8月26日、11月19日)に開催し、山形大学の井上准教授が引き続き議長に就任した。シンポジウム(11月10日)を共催で開催し、科研費獲得セミナー(オンライン)、英語論文セミナーなどの公開事業をとおして交流を深め、加盟機関を対象とする「男女共同参画推進状況調査」を継続して実施した。コロナ禍の中での活動となったが、オンラインによる諸セミナーに多数の参加があった。

今年度は、全国ダイバーシティネットワーク組織への参加について各機関に検討を求めた。その結果、11月末には全国ダイバーシティネットワーク組織に県内の8機関が参画することになり、ネットワーク会議として大きな前進があった。12月には8機関に対し、ダイバーシティ推進に積極的に取り組んでいる機関として「認定証」がそれぞれ交付されており、全国的なネットワークに接続することができた。新たなステージを迎え、来年度以降も本会議が充実していくことが期待できる。

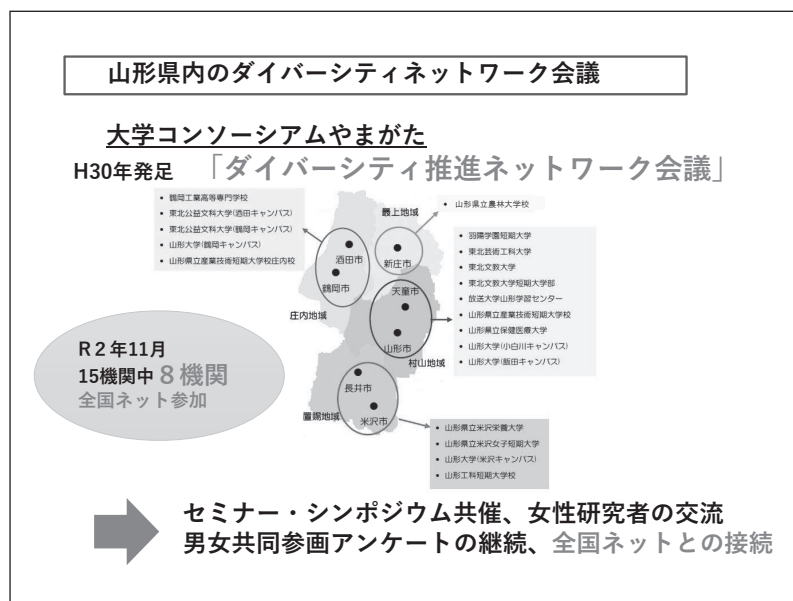


図1 ダイバーシティ推進ネットワーク会議

【全国ダイバーシティネットワーク組織の県内参加機関】

(令和3年1月時点、参加順)

山形大学
山形県立米沢栄養大学
羽陽学園短期大学
東北文教大学
東北文教大学短期大学部
山形県立保健医療大学
鶴岡工業高等専門学校
東北公益文科大学

②-3 | 全国ダイバーシティネットワーク組織東北ブロック(南東北会議)

文部科学省の「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」の新規事業である「全国ネットワーク中核機関(群)」が平成30年10月に採択され、11月に「全国ダイバーシティネットワーク組織」が設置された。代表幹事は大阪大学、副代表は東京農工大学であり、日本IBM(株)は協働機関、日本学術会議は協力機関として参画している。「全国ダイバーシティネットワーク組織」のもとで、8つの地域ブロック会議が置かれることになり、山形大学は東北ブロック会議の幹事大学に委嘱された。

この事業は、全国で女性研究者の研究環境整備や研究力向上に取り組む機関をつなぎ、将来的に自立して活動を行う全国ネットワークの構築を目指し、国内外の取組動向の調査やその経験、知見の全国的な普及・展開等の支援を図ることを目的としている。事業は6年間で、補助金は最初の3年間のみ支給される。地域ブロックについては、3~4大学の幹事大学を設置し、地域ブロック会議を年1回以上開催し、地域の特性に合わせた活動に取り組む。東北ブロック会議の代表幹事は東北大学で、幹事大学は山形大学と岩手大学である。東北地方におけるネットワークの強化に加え、全国的な情報共有の機会が増すことで、関係機関の活動が広く認知され、優れた女性研究者の獲得につながるなどの効果が期待される。また、全国ならびに地域の企業との情報交流の機会が増し、新たな企業との連携も期待できる。令和元年にウェブサイトOPENeDが開設され、本学の取組も掲載されている。

本学は、全国ダイバーシティネットワーク組織東北ブロックの活動において、南東北のネットワーク構築に取り組んできた。昨年度までは、男女共同参画セミナーに合わせて南東北会議を開催していたが、今年度は新型コロナ感染防止のため開催できないため、ネットワー拡大のために南東北会議リーフレット(図2)を作成し、南東北の40機関に送付した。その中で、山形大学や米沢栄養大学を含む南東北会議の6機関の長による「ダイバーシティ研究環境実現のための共同宣言」(令和2年7月)を行うことができた。東北ブロックとしての呼びかけもあり、全国ダイバーシティネットワーク組織東北ブロックの参画機関が、11月時点で8機関から23機関に増加し、山形県内では2機関から8機関に参加機関が拡大した。東北ブロックではオンラインで互いの取組を交流していくことになっている。


なお、今年度12月に、全国ダイバーシティネットワークに参加して取組を進めている機関として、全参加機関に対して認定証(図1)が交付された。

<令和2年度の活動>

- 7月3日 全国幹事会(オンライン)
- 10月28日 東北ブロック会議(オンライン)
- 11月7日 東北ブロック勉強会(オンライン)
- 11月12日 全国臨時幹事会(オンライン)
- 12月14日 全国ダイバーシティネットワーク
認定証交付式/シンポジウム(オンライン)
- 1月15日 東北ブロック会議(オンライン)



図1 認定証



全国ダイバーシティネットワーク組織 東北ブロック

OPENED

O-Progressive Initiatives of Empowering Network for Diversity

南東北の大学・研究機関の皆様へ

東北ブロック 代表幹事大学
国立大学法人東北大学副学長 大隅 典子

科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(全国ネットワーク中核機関(群))」に、大阪大学を幹事機関、東京農工大学及び日本アイ・ピー・エム(株)を協働機関として申請した取組が採択(事業期間は6年間)され、2018年11月より全国ダイバーシティネットワーク組織の事業を開始いたしました。

本事業は、我が国の全体の女性研究者の活躍促進を図るため、女性研究者を取り巻く研究環境整備や研究力向上に取組む機関をつなぐ全国ネットワークを構築することを目的としています。全国ダイバーシティネットワークプラットフォームを構築するとともに、全国を6ブロックに分けて、ブロックごとに幹事大学を置き、各ブロック内における機関の連携強化、情報の共有及び取組の活性化を図っています。

東北ブロックの代表幹事大学は東北大学で、幹事大学は山形大学、岩手大学です。東北ブロックの特性に適合したネットワーク作りを効果的に推進すべく、成果の普及、グッドプラクティスの共有・普及を図り、東北ブロック内のネットワーク形成を強化してまいりました。北東北地区では、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)に採択された岩手大学を始めとする連携6機関により「北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議」が設立されています。しかし、南東北地区では大学コンソーシアム山形に「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」が設立されていたものの南東北のネットワークは整備されていなかったため、2019年より山形大学において南東北会議を開催し、南東北の大学・研究機関に参加を呼び掛けてきたところであります。現在南東北地区の参加機関数は6機関になりましたが、全国的に見ればまだ少ない状況です。

つきましては、参画にご同意いただき、南東北のネットワークの形成についてご尽力賜りますようお願い申し上げます。

ダイバーシティ研究環境実現のための共同宣言

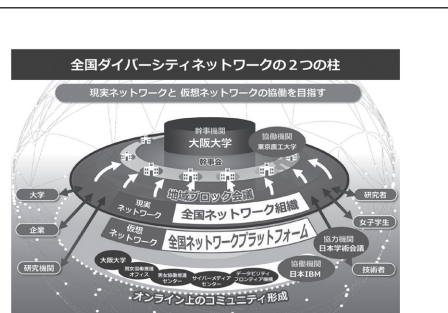
私たちは、全国ダイバーシティネットワーク組織東北ブロック南東北会議に参加し、各機関と南東北地区におけるダイバーシティ研究環境実現のため、以下の取組を推進することを宣言します。

2020年7月27日

- 1 ダイバーシティを実現するための研究環境の整備とワークライフバランスの推進
- 2 女性研究者の在職比率の向上と大学経営における女性参画の拡大
- 3 ダイバーシティを推進するネットワークの形成と地域社会との連携

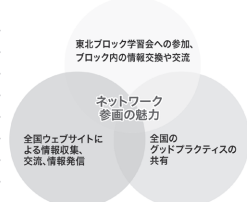
参加の連絡先
東北大学男女共同参画推進センター TEL/022-217-6092 E-mail/office@tumug.tohoku.ac.jp

東北大学	学長	大野 英男
山形大学	学長	玉手 英利
山形県立米沢栄養大学	学長	阿部 宏慈
福島県立医科大学	学長	竹之下 誠一
宮城大学	学長	川上 伸昭
仙台高等専門学校	校長	福村 裕史



全国の地域ブロック・幹事大学・参加機関数(2020年7/31時点)

北海道ブロック	北海道大学、室蘭工業大学	6機関
東北ブロック	東北大学、山形大学、岩手大学	8機関
東京ブロック	東京農工大学、東京大学、お茶の水女子大学	37機関
関東・甲信越ブロック	筑波大学、新潟大学、千葉大学	13機関
東海・北陸ブロック	名古屋大学、金沢大学	20機関
近畿ブロック	大阪大学、京都大学、神戸大学、立命館大学	37機関
中国・四国ブロック	岡山大学、広島大学、徳島大学、愛媛大学	22機関
九州・沖縄ブロック	九州大学、長崎大学、宮崎大学	12機関



<https://www.opened.network/> ●ウェブサイトをご覧ください!!

東北ブロックの活動 (南東北会議関係)

- 2019年 3月1日 東北ブロック会議、勉強会(東北大): 女性活躍指標、英国アテナ・スワン認証制度
- 3月8日 東北ブロック南東北会議(山形大学): 福島県立医科大学の取組、山大シンポジウム参加
- 7月5日 東北ブロック南東北会議(山形大学): 南東北4大学の取組、山大セミナー参加
- 10月3日 東北ブロック会議、勉強会(東北大学): 岩手大学の取組(無意識のバイアス)
- 2020年 2月25日 東北ブロック勉強会(東北大学): アメリカ・イギリス、ドイツの大学認証評価

東北ブロック南東北会議 2020年度委員

東北大学 副学長 大隅 典子
 山形大学 理事・副学長 男女共同参画推進室長 小嶋 浩孝
 山形県立米沢栄養大学 理事 大和田 茜子
 福島県立医科大学 理事・副学長 齋谷 進夫
 宮城大学 理事・副学長 武田 祥子
 仙台高等専門学校 男女共同参画推進室長 竹内 素子

●南東北の皆様への参加をお待ちしています。



2019.3.1 東北ブロック勉強会(東北大学)

本リーフレットの問合せ
 山形大学男女共同参画推進室 TEL/023-628-4937 E-mail:y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

図2 リーフレット

③ 意識改革

③-1 | 男女共同参画セミナー

令和2年6月22日(月)東北大学副学長である大隅典子氏を講師にお迎えし、「東北地区のダイバーシティを推進するために～ネットワークによる女性研究者の活躍促進～」をテーマに開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止することになった。

③-2 | 3 機関合同シンポジウム

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型) 3 機関合同シンポジウム 「ダイバー事業の成果報告～有機ELを活用した未来の生活創造への女性研究者の参画～」

日時：令和2年11月10日(火) 13:30～17:00
 場所：山形大学米沢キャンパス11号館2F 未来ホール、
 およびZoomによるオンライン配信
 参加者：関係者41名、一般11名、合計52名

大日本印刷株式会社研究開発センター・米沢栄養大学(連携機関)、COI関係者、外部評価委員、コンソーシアムやまがた、東北地方大学関係者、山形県及び山形市男女共同参画関係者

内容：事業の最終年度にあたり、6年間の事業成果報告のための3機関合同シンポジウムをCOIと共催して開催し、学内外の関係者で成果を共有し、今後の継続性について確認した。事業前半では研究環境を整えて、サービスデザイン・プロジェクトで研究力の向上を図り、事業後半ではCOIと連携して共同研究・社会実装を推進し、広く地域に成果を普及したことについて高い評価を得た。II部のCOI若手・女性研究交流会は今後も継続していくことになっている。



図1 ポスター

【プログラム】

I部 事業の成果報告 13:30～15:20

- (1) 開会の挨拶 山形大学 理事・副学長 男女共同参画推進室長 小島浩孝
- (2) 学長の挨拶 山形大学 学長 玉手英利
- (3) 講演

「女性研究者の現状と事業終了後に期待すること」

国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)科学技術プログラム推進部 プログラム主管

山村康子氏

- (4) 報告1

「山形大学COI事業報告～地域と連携した未来社会の創造」

山形大学COI研究機構 特任教授 大場好弘

(5) 報告2

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)の事業報告」
山形大学男女共同参画推進室 チーフコーディネーター 井上榮子

(6) 閉会の挨拶 山形県立米沢栄養大学 学長 阿部宏慈氏

II部 「SDGs×COI若手・女性研究者交流会～SDGsの観点からの研究交流～」 15:30～16:30
「COI若手連携」と共催し、オンラインによる研究発表・交流会(発表は各10分)

発表者	所属	発表テーマ
金光 秀子	山形県立米沢栄養大学 健康栄養学部 教授	「健康な食事」「健康な食事(通称:スマートミル)」認証に向けての取り組み ～地域の食環境整備を目指して～
伊関 千書	山形大学医学部 内科学第三講座 講師	認知症および高次脳機能障害者における味覚・嗅覚障害
後藤早紀子	山形大学医学部 眼科学講座 助教	0.05%点眼薬による糖尿病黄斑浮腫の治療効果の検討 ～糖尿病網膜症の最新の治療～
吉田 麗娜	山形大学有機エレクトロニクス イノベーションセンター 特別研究員	溶液プロセスによる機能性薄膜の創成と応用
原田 知親	山形大学大学院理工学研究科 電気電子工学分野 助教	アンビエントなライフログデータ取得に向けた取り組み

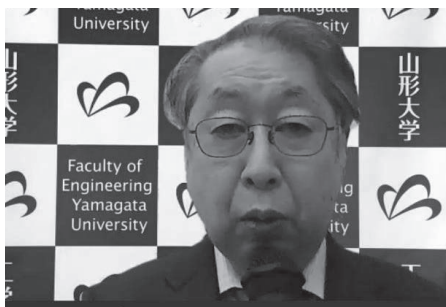


写真1 玉手学長挨拶

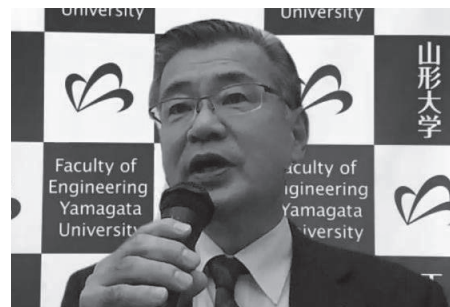


写真2 小島室長挨拶

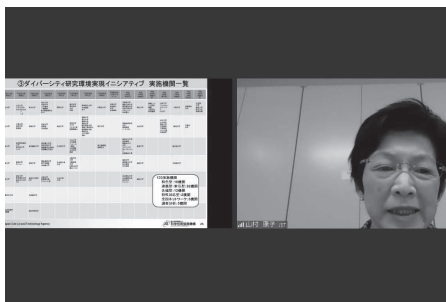


写真3 JST山村様の講演



写真4 質疑応答の様子



写真5 大場特任教授のCOI事業報告



写真6 阿部栄養大学長の閉会挨拶


講演・報告1の概要（発表資料より抜粋）

報告2については、本報告書P85の「IV 6年間の事業成果」を参照。

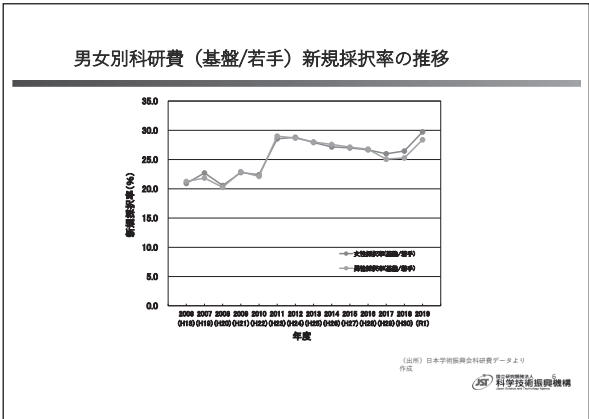
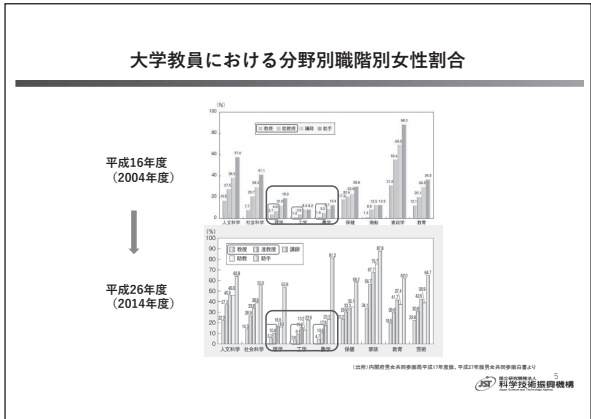
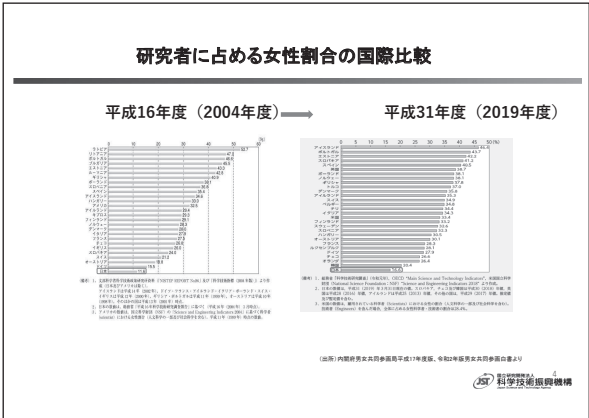
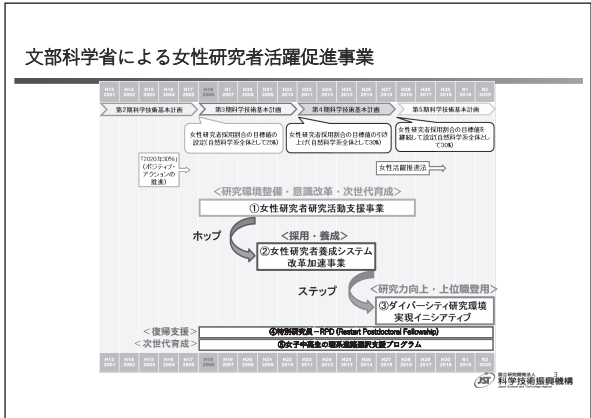
(1) 講演

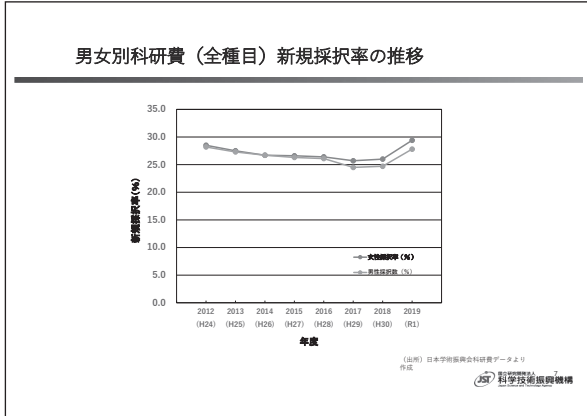
女性研究者の現状と 事業終了後に期待すること

令和2年11月10日
山形大学米沢キャンパス 未来ホール


科学技術振興機構
 プログラム主管 山村 康子

1. 女性の活躍促進を図る日本政府の方策
2. 文部科学省や経済産業省による女性の活躍促進を図る事業
3. 文部科学省事業実施機関における女性研究者の現状
4. 全国の女性研究者の現状
5. 事業終了後に期待すること



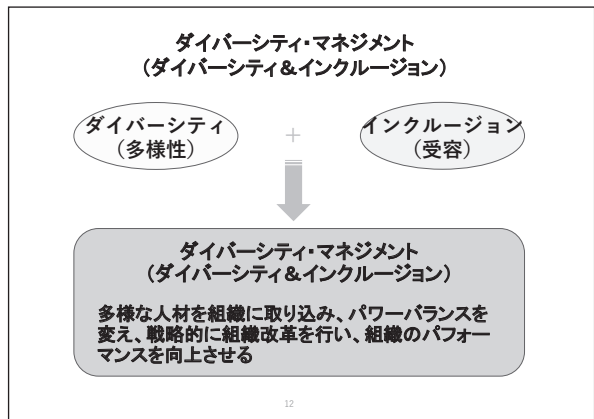


5. 事業終了後に期待すること

- ### ダイバーシティ推進体制の維持・発展
- 事業の成果の検証（数値データの分析）と検証結果の周知
 - 教育研究分野におけるダイバーシティ推進の必要性の浸透
 - トップダウンによる事業実施体制及び事業実施費の確保
 - 寄付金、外部資金、クラウドファンディング等の活用
- JST 科学技術振興機構

- ### 女性上位職（教授、准教授相当）の育成
- 女性研究者の研究力向上の推進及び成果の検証と検証結果の周知
 - トップダウンによる女性上位職に係る採用、昇任システムの構築
 - 部局上位職教員の意識改革（国の方針及び社会意識変化の周知）
 - 優れた女性研究者の探索と採用、昇任の推進
- JST 科学技術振興機構

- ### 女性マネジメント層の育成
- マネジメント層を目指す意識の醸成
 - マネジメント層候補者の探索とリーダーシップの育成
 - マネジメント層のワーク・ライフ・バランスの推進
- JST 科学技術振興機構



(2) 報告1

COIプログラム ビジョン3

「山形大学COI事業報告～地域と連携した未来社会の創造」

2020年11月10日

山形大学COI研究推進機構
RL 山形大学特任教授 大場好弘

目指すべき将来の姿(拠点ビジョン)の設定

withコロナの高齢者・地域の生活イノベーション

社会課題: 雪で巣ごもり, 高齢化・病人増, 地域・産業の衰退

地域に魅力ある産業、高齢者や地域でも快適・健康で安全な暮らしの創出

日本型スマート高齢化社会 → 高齢者と若者の共存発展社会

withコロナの快適・安心・魅力ある暮らし, withコロナの健康長寿・子育てを支える, withコロナの産業の振興・高付加価値化

テーマ: 暮らしのQOL向上, 高齢者・介護者子どもの健康, 地域・産業の活性化

山形大学COIプログラム コンセプト

人が変わる、社会が変わる、ビジネスが変わる。

山形大学COIプログラムから構築するスマート未来システム

スマート未来ハウス, 有機材料システム, フロンティアセンター

プロジェクト: PL:三宅, RL:大場, SPL:菟田

社会課題を解決するチーム編成

社会課題からテーマ設定	社会課題	担当者	シニース	企業・機関
地域・産業グループ	産業チーム	山形県 農産物加工課	密着乾燥技術	KK社
健康・暮らしグループ	地域連携チーム	山形県 健康福祉課	機能性食品、乾燥食品	金山町 他
プラットフォームグループ	介護医療支援チーム	山形県 介護福祉課	有機ELパネル	XXX社, YY社
	暮らし支援チーム	山形県 福祉課	地域連携プラットフォーム	米沢市 他
	子育て支援チーム	山形県 子育て支援課	ネットワーク(WiFi)システム	HH社
	経営企画チーム	山形県 経済産業課	介護員向けセンサシステム	aa社
	基礎技術チーム	山形県 産業技術課	リストバンド型センサ	11社
		山形県 健康福祉課	スマートウェアの医療応用	YY社
		山形県 健康福祉課	ウェアラブル(事業化フェーズ)	SS社
		山形県 健康福祉課	睡眠解析・睡眠アシスト	GG社
		山形県 健康福祉課	有機EL照明・センサー	筑波大
		山形県 健康福祉課	子ども・子育て用照明	mm社
		山形県 健康福祉課	ヘッドセンサー	YY社, RR社
		山形県 健康福祉課	モニタリングウォール	FF社, dd社
		山形県 健康福祉課	有機EL照明	BBB社
		山形県 健康福祉課	有機太陽電池	III社
		山形県 健康福祉課	研究開発戦略	山形大学
		山形県 健康福祉課	大学改革	山形大学
		山形県 健康福祉課	印刷デバイス・印刷プロセス	山形大学
		山形県 健康福祉課	材料技術・マイクロ加工	山形大学
		山形県 健康福祉課	技術・ネットワーク技術	山形大学
		山形県 健康福祉課	化学センサ・食品栄養解析	山形大学

ロードマップの表現

2012-15 要素開発
フェーズ1 基礎確立

2016-18 技術開発
フェーズ2 社会実装への道筋

2019-21 社会実装の検証
フェーズ3 社会実装

成功のための3つの変革

新しい日本の勝ちパターン(研究)

新しい日本の勝ちパターン(事業)

ビジネスモデルの変革

第2回地域連携プラットフォーム会議

～小野川のまちづくり～

2019年8月28日(水) 15:00-17:00

山形大学東キャンパス11号館2階 未来ホール

男女共同参画・地域連携イベント

男女共同参画・地域連携イベントのポスター

地域連携プラットフォーム構築活動

健康長寿米沢市民会議への参加：委員として工学部長、井上榮子教授が参加

みんなで目指そう！健康長寿日本ー！

米沢市長参加、COIのヘルスケア部門の熊本准教授が講演

(1) 健康長寿日本一推進プラン（案）について 米沢市健康長寿推進企画主催 後藤誠一
 (2) 介護・ヘルスケア応用に向けた大規模システム開発について 15分
 山形大学准教授・大学院有機材料システム研究科 熊本 大介 氏

COIプログラムが目指す未来価値社会

全ての人が健康で豊かに生活するダイバーシティー未来価値地

（住み続けられるまちづくり） （産業と技術革新の基盤をつくろう）

1. 地域生活の魅力が再認識し多くの人と共有する未来型価値社会。
 魅力：自然豊か、食べ物が豊かで魅力的、四季が癒し、人々の繋がりと新たなツール5G、SNS発信、新センサー、AIで支援する未来価値社会
2. With コロナ時代の暮らし方で魅力発信(SNS, You-tube等で価値改革) 人と人の距離がゆったり保てる空間の豊かさ確かな繋がりが人々の健康を支える食、住まい、自然、働きを提供⇒確かな雇用と心の豊かさ
3. 地域の魅力:ジェンダーを越えて全ての人々にやさしい地域: 全世代の健康見守りのサポートが実践される魅力あふれる地域。 家族、近隣住民、栄養士、保健士、医師、介護士等の専門家と繋がる安心安全で質の高い生活実現社会=新たな未来価値社会

COIと男女共同参画社会連携チーム：TL井上榮子先生

学内構成メンバー：熊本大介 (COI)、本島優子 (地教)、伊関千書 (医学)
 齊藤裕一 (国際事業化センター)、原田知親 (COI)、
 黒谷玲子 (工)、三原法子 (地教)、石垣和恵 (地教)
 高澤由美 (工) 鈴木慎一 (米沢栄大)、井上榮子 (推進室)

取り組み課題：

- (1) ヘッドセンサーの赤ちゃん、認知症患者への応用 (地域連携課題：育児と介護)
- (2) サービスデザインによるITを活用した栄養指導 (地域健康課題：成人病問題) (R2年度ダイバ事業の共同研究費補助事業)
- (3) 地域連携プラットフォーム会議「小野川のまちづくり」(地域連携組織：地域再生)
- (4) 米沢市健康長寿市民会議への協力について (地域連携組織：総合的健康課題対策)

例：同じこもり傾向にある高齢者問題や塩分の取りすぎ問題

市民参加型の取組開始

市民の健康活動がムーブメント化している。COIとの連携強化で健康長寿日本ーへ

Withコロナ時代ーあるべき地域社会ーWell-Being社会の実現

コロナ禍の下、大都市一極集中型から多核連携型へと社会変革が求められている。多核連携型でWell-Being(「人々が安心・健康で生き生きと生活できる」状態)な社会の実現のためには、地域がその魅力を活かしつつ、発展の阻害要因を解決することが必要である。山形地域は、高齢化、人口減少、人手不足、健康不安、産業の停滞等の課題を抱えており、これらを山形大学が持つ有機ハイブリッド・システムやデジタル・ファブリケーション等の最先端技術及び産学共創によるものづくり力で解決し、誰もが住みたく魅力あるダイバーシティー地域社会を実現する。同時に新たな感染症の発生・流行や大規模災害に対する強靱化技術開発と社会実装に取り組む。

④ 研究とライフイベントとの両立支援

④-1 | 研究継続支援員制度

(1) 制度の目的

ワークライフバランスを保ちながら研究活動を行う環境作りの一環として、研究継続支援員（以下「支援員」という。）を配置し、出産、育児、介護等により十分な研究活動を行うことができない研究者を支援することを目的とする。

(2) 支援の対象者

支援の対象となるのは、当面、次に掲げるいずれかの要件で研究活動に支障が生じていると思われる女性研究者及び男性研究者とし、男女共同参画推進室長が認めた者とする。

本学に所属する常勤研究者（教員・医員）及び本学に所属する研究者（博士後期課程学生・ポストドクター）で、

- ① 妊娠中又は小学6年生までの子育て中の者
- ② 市町村から要介護の認定を受けている親族（同居別居は問わない。）を介護している者
- ③ その他、上記理由に準ずる者

(3) 支援する業務

支援する業務は、研究データの整理・研究者の実験補助等。

(4) 支援する期間及び時間

支援する期間は、4月1日から9月30日まで（前期）及び10月1日から翌年の3月31日まで（後期）の6ヶ月単位とする。支援する時間は、週15時間以内とする。

(5) 利用者状況（令和2年度前期・後期分）

<令和2年度の利用状況>

利 用 年 度	山形大学		米沢栄養大学	
	令和2年度(前期)	令和2年度(後期)	令和2年度(前期)	令和2年度(後期)
利 用 者 数	20名	23名（継続20名）	1名	1名（継続1名）
申 請 理 由	育児・介護	育児・介護	介護	介護
支 援 員 配 置 時 間	1,890時間	2,160時間	379時間	192時間

④-2 | 夜間保育、休日保育、病児・病後児保育、学童保育利用料補助制度

(1) 制度の目的

仕事と育児の両立を図ることを目的とし、連携機関に所属する女性研究者等に対し、夜間保育、休日保育、病児・病後児保育、学童保育の利用に対する利用料金の補助を行う。補助金額は、子ども1人につき年間20,000円を限度とする。

(2) 支援の対象者

連携機関に雇用されている研究者（非常勤の研究者（週の勤務時間が30時間以上で雇用期間が2ヶ月を超える者をいう。）を含む。）で、小学校6年生までにある子どもを養育する者。男性研究者については、その配偶者が、大学、大学共同利用機関、独立行政法人、公設試験研究機関、公益社団・財団法人及び民間企業で雇用されている研究者に限る。

(3) 登録者・利用者の状況

利用者の殆どが平成28年度から継続利用者が多く、学童の利用が多くなってきている。

<登録者数> 令和3年1月末日時点

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
登録者（研究者）	7名	9名	8名	8名	7名
登録者（子ども）	13名	16名	15名	14名	11名

<目的別利用者数（子ども）> 令和3年1月末日時点

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
夜間保育	4名	7名	3名	7名	0名
休日保育	0名	1名	2名	0名	0名
病児・病後児	2名	2名	3名	2名	0名
学童保育	2名	3名	6名	4名	4名
合計	8名	13名	14名	13名	4名

④-3 | ライフイベントによる研究中断からの復帰支援制度

(1) 制度の目的

女性研究者が妊娠・出産・育児・介護などのライフイベントによる研究中断後、円滑に研究現場に復帰できるよう、研究者を継続的に育成・支援し、研究環境の多様性を促進することを目的とする。

(2) 支援の対象者

当該復帰した日の前日の3年前の日の属する年度の4月1日から遡って過去3年以内に、ライフイベントのため概ね3ヶ月以上やむを得ず研究活動を中断した女性研究者を対象とする。

(3) 申請状況と審査結果

<申請件数>

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
申請数	2件	6件	3件	2件	2件
採択数	2件	6件	3件※	2件	2件

※平成30年度採択のうち、1件は平成30年9月より研究中断し、令和元年度に研究再開

(4) 令和2年度復帰支援制度採択による研究

本年度採択された復帰支援制度に係る研究は以下の2件である。研究中断理由は、いずれも妊娠・出産・育児によるものであった。

1. 後藤 早紀子（山形大学学術研究院（医学部眼科学講座）・助教）

テーマ「糖尿病黄斑浮腫に対するステロイド点眼薬の治療効果についての検討」

2. 河合 寿子（山形大学学術研究院（理学部理学科）・助教）

テーマ「蛍光タンパク質による葉緑体と相互作用する細胞小器官の検出」

④-4 | 相談制度

相談員制度は、ダイバーシティ研究環境の支援制度として位置づけられ、女性研究者の研究とライフバランスの両立を支援することを目的にした制度である。主に連携機関に所属している女性研究者・女子大学院生を対象にしているものの、ワークライフバランスに関する相談など連携機関に所属するものなら男性も含め誰でも利用できる。電話、メール、相談申込書により受け付け、日時や場所については相談者と調整の上決定する。相談者の話を聞いたうえで、有益な情報や支援制度を案内する。また、疑問や要望など対応が必要な場合は関係機関へ検討を依頼し、問題の早期解決を目指し深刻化を防げるよう取り組んでいる。

本事業が認知され、支援制度の利用率が向上されるとともに利用者は減少しているものの、一定数のニーズがあり、研究者との信頼関係を構築できている。

④-5 | 託児サポーター制度

連携機関に所属する教職員等の仕事と育児の両立を支援する制度であり、一般財団法人女性労働協会の保育サービス講習カリキュラムに基づいた講義及び保育実習を修了した学生が「託児サポーター」として、保育士の指導の下で託児業務を行う。令和2年度は、託児業務の委託先の都合により契約未締結のため、実施していない。

⑤ 女性研究者の研究力向上

⑤-1 | サービスデザインプロジェクト

本事業が、サービスデザインプロジェクトをとおして研究力を向上し、COI連携を強化して女性研究者の活躍促進を図っていることが、「2019年度版 ものづくり白書」（経産省・厚労省・文科省 2019.6.11）に掲載された。

事業後半では、サービスデザインプロジェクトの研究成果やシーズの共同研究と社会実装をめざして取組を進めている。令和元年11月にはCOI共催で3機関シンポジウムを開催し、黒谷玲子氏（理工学研究科・准教授）より、「～女性にとって『快適で豊かな未来の生活』をデザインする～産学連携サービスデザインプロジェクト活動内容」と題して報告発表を行った。

その後、社会実装に向けた検討会議を国際事業化研究センターで実施したことを契機に、令和2年度までにCOI地域連携「社会実装会議」を4回開催（オンライン）し、多様な分野の女性研究者とCOI若手研究者との共同研究を進めてきた。

その結果、令和2年度女性代表共同研究支援では昨年度よりも1件多い6件が採択されたが、特筆すべきことに、サービスデザインプロジェクトの研究シーズを活用し、「サービスデザインのIT開発と栄養指導への活用」をテーマとする共同研究が成立した。この共同研究代表は、三原法子氏（地域教育文化学部・講師）であり、原田知親氏（理工学研究科・助教）の他、山形大学の女性研究者2名、米沢栄養大学の女性研究者1名が参加している。今年度は、サービスデザインプロジェクトによる2つのサービスアイデアの中から1つのアイデア（DishELa）に絞り、プロトタイプ1号機を製作し、山形県栄養士会の会員の協力を得て、病院および介護福祉施設の管理栄養士対象にしたアンケート調査を実施し、分析・検討を行う。社会実装会議では、今後の進め方について学内で協議を行い、課題を解決しながら共同研究を継続していくことを確認した。

なお、令和2年9月11日に開催した社会実装会議（オンライン）には、共同研究者3名と山形県栄養士会の4名の代表者が参加し、次のような活発な意見交換が行われ、地域の期待が大きいことが実感された。高齢化・過疎化が深刻な中、三世同居で共働きの山形の女性の視点に立ち、地域の専門家と連携して社会実装を目指していきたい。

- ・山形県の2つの目標「野菜たっぷりメニュー」と「減塩」に基づくものを作ってほしい。
- ・健常者対象（1食）か負傷者対象（病院、3食）のどちらを基本にするのか。
- ・負傷者を対象とした場合は、微量元素値を出せるAIが欲しい。
- ・野菜たっぷり＋減塩（規定値：男7.5g、女6.5g）の基本メニューがでてくるAIが欲しい。
- ・献立アプリが欲しい。
- ・健康指導等で、基本食材を基に指導することが可能。
- ・リコmendができるようにしてほしい。

⑤-2 | 女性代表共同研究費支援制度

(1) 制度の目的

女性代表共同研究費支援制度は、連携機関に雇用されている女性研究者が研究代表者となり、研究代表者が所属する機関以外の連携機関に所属する研究者等と共に行う研究を支援するものである。

(2) 申請状況と審査結果

今年度は合計7件の共同研究の申請があった。うち1件は、サービスデザインプロジェクトに関わる研究であり、特別枠として設定したものである。これらの審査を「ダイバーシティ共同研究支援審査会」（審査員は連携機関の事業実施責任者及び山形大学男女共同参画推進室チーフ・コーディネーターの4名で構成）が、提出された申請書に基づき、研究の社会貢献度、有用性、研究計画及び支出計画について審議を行った。

その結果、特別枠を含む6件が採択された。

(3) 令和2年度に採択された女性代表共同研究

表1 令和2年度女性代表共同研究採択一覧

研究代表者	1	2	3	4	5
	三原 法子	伊関 千書	黒谷 玲子	渡辺 理絵	吉田 麗娜
所 属	山形大学・講師	山形大学・講師	山形大学・准教授	山形大学・准教授	山形大学・特別研究員
テーマ	適正な嚥下調整食提供のためのモバイル食品物性評価ツールの開発（継続）	加齢・神経変性が味覚に及ぼす影響：味覚障害を呈する認知症を捉える（継続）	新規生理活性物質SCGB3A2の食物アレルギー改善メカニズムの解明	中山間地における山菜のふるさと資源化と地域振興の効果に関する調査・研究	Low Temperature Photochemical Solution Processing of metal oxide electron injection layer for flexible LEDs
研究期間	平成28年6月1日～令和3年3月31日	平成29年5月1日～令和3年3月31日	令和2年5月1日～令和3年3月31日	令和2年6月1日～令和3年3月31日	令和元年5月1日～令和3年3月31日
共同研究者1	江口 智美 山形県立米沢栄養大学・講師	大野 浩平 大日本印刷株式会社 研究開発センター・部長	山田 英明 山形県立米沢栄養大学・教授	金光 秀子 山形県立米沢栄養大学・教授	沖本 直子 大日本印刷株式会社 研究開発センター・パターンニング製品研究開発本部 第4部
共同研究者2	西岡 昭博 山形大学・教授	山下かおり 大日本印刷株式会社 研究開発センター・課長	江口 智美 山形県立米沢栄養大学・講師		
共同研究者3	香田 智則 山形大学・准教授				
共同研究者4	村澤 剛 山形大学・教授				

表2 令和2年度女性代表共同研究採択一覧（特別枠）

研究代表者	(特別枠)
	三原 法子
所 属	山形大学・講師
テーマ	サービスデザインのIT開発と栄養指導への活用
研究期間	令和2年6月1日 ～ 令和3年3月31日
共同研究者 1	大和田 浩子 山形県立米沢栄養 大学・教授
共同研究者 2	黒谷 玲子 山形大学・准教授
共同研究者 3	原田 知親 山形大学・助教
共同研究者 4	石垣 和恵 山形大学・准教授

⑤-3 | 英語論文の書き方セミナー

現代の研究者にとって、研究成果をまとめ、論文、特に英語論文として世に問うことは必須の作業である。女性研究者の研究力向上の一環として、英語論文を書くことの意義と書き方について学ぶ英語の書き方セミナーを開催した。

本年度はCOVID-19感染拡大の状況を鑑み、密を避けるべく各会場での事前申込者数を絞った上で、参加者への体調管理の呼びかけ、各会場での手指消毒、そして分散着席の徹底などの対応をとった。

日 時：令和2年10月9日(金) 15:00~16:00

場 所：山形大学小白川キャンパス 法人本部第1会議室

<テレビ会議配信>

飯田キャンパス：医学部第2会議室

米沢キャンパス：講義棟3階会議室

鶴岡キャンパス：農学部小会議室

大日本印刷(株) 研究開発センター

参加者数：39名

講 師：後藤 薫氏

山形大学学術研究院教授(医学系研究科)

【内容】

科学論文の興味深い歴史の紹介とともに、論文作成過程において自らの思考を「記録」し、「言語化」し、さらに「図式化」することの重要性についてお話いただいた。さらには、英語という言葉の特性解説、先人の論文を数多く読むことが文章を書くうえで重要であることなどを、わかりやすく解説いただいた。

参加者のアンケートからは、「英語論文の書き方だけではなく、その哲学の歴史も大変興味深かった」などの感想が寄せられた。

文部科学省 科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)
山形大学・大日本印刷株式会社研究開発センター・山形県立米沢栄東大学

対象：研究者、教職員、ポスドクター、学生等

英語論文の書き方セミナー
～英語論文で世界に問う～
2020年10月9日(金)15:00~
山形大学小白川キャンパス 法人本部 第1会議室

TV配信
(予定)
米沢キャンパス：講義棟3階会議室
飯田キャンパス：医学部第2会議室
鶴岡キャンパス：農学部小会議室

講師 後藤 薫氏
山形大学医学部医学研究科
解剖学第二講座
(組織細胞生物学) 教授

PROFILE
山形大学医学部医学科卒業、東北大学大学院医学研究科修了。博士(医学)。東北大学大学院医学研究科助手、講師、助教授を経て、1997年より現職。1994年に日本解剖学会副賞を受賞。研究分野は、基礎医学、解剖学一般(食、組織学・発生学)、ならびに細胞内情報伝達機構、細胞内情報伝達機構における膜リン脂質代謝の役割を追求するため、イノシトールリン脂質代謝により生じるジアシルグリセロール(DAG)の代謝経路DGキナーゼに注目し、その遺伝子クローニング、mRNAおよび蛋白の発現局在の解析、培養細胞を用いた遺伝子導入実験、トランスジェニックマウス作製による遺伝子レベルでの機能解析を行なっている。

英語論文発表の豊富な経験を持つ後藤先生から、執筆の際に必要な実践的なスキルや研究成果の効果的な発表方法を学びます

COVID-19の流行状況により、オンライン方式に変更される可能性があります。予めご了承ください。ホームページに最新情報を掲載しますので、ご確認ください。

申込み・問合せ先
山形大学男女共同参画推進室
TEL 023-628-4937
E y-danjo@yjm.kj.yamagata-u.ac.jp (米沢分室) メール・Webで申込み

9月23日
申込み締切

QRコード

図1 チラシ



図2 講演する後藤教授



図3 会場の様子

⑤-4 | 外部資金獲得セミナー

日 時：令和2年9月8日（火）14：00～15：30

開催方法：Zoomによる遠隔実施

参加者数：138名

講師：古川 英光 氏

山形大学学術研究院教授（理工学研究科）

【目的】

女性研究者をはじめとする大学等の研究者の外部資金獲得を促進し、研究に取り組む意識の啓発と研究力向上を図る。

【内容】

今年度で6年目となる外部資金獲得セミナーは、山形大学研究部研究支援課とのジョイントセミナーとして、山形大学大学院理工学研究科教授 古川英光 氏を講師に招き、お話しいただいた。本事業の取組みを地域に波及させるために、これまでと同様に「大学コンソーシアムやまがた」に加盟する県内の高等教育機関にも公開し、本学を含め6大学・高等専門学校から138名の参加があった。

講師の古川氏は、ご自身の科学研究費の初めての申請や、基盤Bへの申請時の採択と不採択の両方の研究計画調書を比較しながら、不採択の結果を踏まえて、どのような見直しを行ったのかを、具体的に説明いただいた。そのうえで、不採択と採択の境目として、「古い、平凡、独りよがり」ではなく、興味を惹かれるよう「新しい、非凡、ユーザー目線」で作成すること、そのためには、ファクトとオープンイノベーションから魅力的なコンセプトが作れるようになることをお話しいただいた。

参加者からは、「アウトリーチが評価点になるなど、普通では知りえない情報を得ることができた」、「実際に提出された申請書類の中身を見せていただき勉強になった」、「コンセプトの作り方や審査員目線の計画調書の書き方、採択・不採択時の調書の比較など、とてもためになった」、「モノを集める素は、コミュニケーション『ダイナミック・ケイパビリティ』で人間関係を広げていくことも科研費獲得につながるということもよく分かった」等の感想があり、本セミナーは、参加者にとって科学研究費をはじめとする外部資金の獲得に資する大変貴重な機会となった。



図1 チラシ

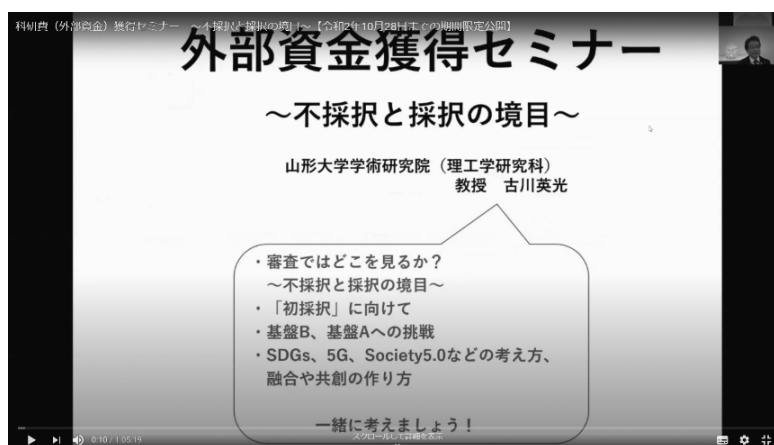


図2 Zoomによる遠隔実施

⑤-5 | 自己啓発合宿

自己啓発合宿の概要と講師の紹介

この自己啓発合宿は、連携機関に所属する女性研究者の研究開発能力、マネジメント能力などを育成し、自己の啓発を推進することを目的としている。2年間で計4回のプログラムを継続受講することで、主体的にキャリアビジョンをデザインするスキル及び、組織のリーダーとして必要なスキルの育成をはかる。講師には、大日本印刷株式会社のダイバーシティ関連の施策で長年ご指導いただいている、ライフデザインズ・オフィス代表、小西ひとみ氏を迎えている。6年目にあたる本年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け延期となった第3期の第2回と、第3回を実施した。第4回（最終回）は2021年2月に実施予定である。なお新型コロナウイルスへの対応として、研修はオンライン（Zoom）で開催し、研究開発センターにおけるZoomオンライン会議運用ルールに従い、大日本印刷株式会社の受講生のみでの参加となった。



<講師 プロフィール概要>

小西 ひとみ (<http://www.konishihitomi.com>)

ライフデザインズ・オフィス代表

ファシリテータ/キャリアカウンセラー（CDA）

認定心理士

国家資格キャリアコンサルタント養成講座の認定講師

国家資格キャリアコンサルタント日本心理学会会員

第3期 第2回自己啓発合宿

2020年10月14日（水）、15日（木）の2日間、3期第2回自己啓発合宿「リーダーとして伝える力、共感する力～プレゼンテーション力を高める～」(大日本印刷7名：男性3名、女性4名)をオンライン（Zoom）で開催した。新型コロナウイルスへの対策として、受講者の当日の体温・体調チェック、大日本印刷株式会社研究開発センター柏施設内3部屋での分散受講、換気・消毒の徹底、座席は前後左右2m以上の間隔を確保、各座席前方には飛散防止アクリル板を設置した。



図1 オンライン研修の様子

リーダーシップ、プレゼンテーション（オンラインでのコツなど）についての座学と、個人演習として、「課題（テーマ）を伝えるチカラ」と、「相手に期待する反応を確認するチカラ」を養う2つの具体的なケースについて、自ら5分間のプレゼン内容を考え発表し、更にグループディスカッションでの質問会議とフィードバックを通して、各人の理解の深耕と今後の課題を明らかにできた。

事後アンケートでは、「体系的にプレゼンテーションについて考える機会となり、自分に足りない要素が明らかになった」、「4つのタイプ別コミュニケーションスタイルの講義が参考になった。」、「上司・部下の関係においては、より正しく伝えないと信頼関係を構築できない。伝えるということをもっと意識してコミュニケーションをとっていく必要を感じた」などの意見があった。また、コロナ禍で実業務でもオンライン会議（プレゼンテーション）が急増しているなかでの課題意識があり、明日からでも直ぐに使えるスキルの習得になった点も好評であった。

第3期 第3回自己啓発合宿

2020年12月9日（水）、10日（木）の2日間、3期第3回自己啓発合宿「違いを認め、互いを活かすチームづくり～チームビルディングD&Iを目指すリーダーシップ・スタイル～」(大日本印刷7名：男性3名、女性4名)を、第2回と同様の新型コロナウイルスへの対策を行った上で、オンライン（Zoom）で開催した。今回は自宅等の柏施設以外からの参加者も半数以上いた。

チームビルディング（状況対応型リーダーシップ、シェアードリーダーシップ）、チームコーチング（質問会議）についての座学と、チーム力を活かすグループ演習、各人のキャリアに対する課題をテーマにした全員での質問会議（7セッション）を通じて、違いを認め、互いを活かすチームづくりに必要な『伝える力』や『聞き出す力』の重要性と各人の今後の課題を明らかにできた。

事後アンケートでは、「こちらの真意を『伝える』ためには、相手の状況に合わせて、表現方法や話す順番を工夫することが必要」「チームの目標を全員が理解し、同じ方向を向いて、必要な時に必要な情報をみんなが出し合うことが、効率的に成果に結びつけることができる」「質問会議を有機的に回して行くには、質問の仕方、状況によってはその前の準備、質問を聞く姿勢など、準備や心構えが必要」、「『聞き出す力』について実践を交えた内容でとても勉強になった」などの前向きな意見が多く寄せられた。

第2回 自己啓発合宿		第3回 自己啓発合宿	
1日目(2020.10.14)	2日目(2020.10.15)	1日目(2020.12.09)	2日目(2020.12.10)
10:00 オリエンテーション	10:00 前日の振り返り	10:00 オリエンテーション	10:00 前日の振り返り
10:10 講義	10:10 演習	10:10 講義	10:15 演習
10:55 休憩	10:50 休憩	10:20 演習	12:10 昼食
11:05 講義	11:00 講義	11:40 昼食	13:10 演習
11:20 演習	11:20 演習	12:40 演習の振り返り	13:55 休憩
11:50 昼食	11:55 昼食	13:15 質問会議	14:35 演習
12:50 質問会議	13:00 演習	13:45 休憩	16:20 終了
13:55 休憩	13:40 講義	13:55 講義	
14:05 演習	13:55 休憩	15:10 休憩	
15:25 休憩	14:05 質問会議	15:20 演習	
15:35 演習	14:35 休憩	16:50 終了	
16:10 終了	15:45 講義		
	16:00 終了		

図2 スケジュール

⑤-6 | 女性研究者研究成果発表会

日 時：令和2年11月10日(火) 15:30~16:30

場 所：山形大学米沢キャンパス工学部11号館 2階未来ホール

【目的】

主に学生(大学生、大学院生)等を対象にした女性研究者の研究成果発表会を開催し、女性研究者の裾野の拡大を図る。

【内容】

山形大学COIと連携して実施した3機関共同シンポジウム「事業の成果報告～有機ELを活用した未来の生活創造への女性研究者の参画～」(一般11名、関係者41名、合計52名が参加)の第Ⅱ部として、「SDGs×COI若手・女性研究者交流会～SDGsの観点からの研究交流～」を開催した。この企画は、米沢栄養大学で例年開催している「女性研究者研究成果発表会」を兼ねており、5名の研究者(うち、女性研究者は4名)による発表が行われた。



図1 会場の様子

発表後の意見交換では、「交流を通して様々な領域の研究を知ることによって自分の研究も膨らむ」、「このような研究発表が動画でも見られる機会が増えるとよい」、「女性研究者を増やすためには、安定した常勤の雇用を増やすことが必要」、「今回の発表内容のテーマに出された、食事、味覚、糖尿病の話は、深いところではつながるものであり、連携できる可能性が多々あると感じられた」といった意見が出されたほか、会場からは「スマートミールの認証店が少ないのが残念。取得することのメリットになるような取組みができないか」といった質問がなされるなど、参加者にとって充実した機会となった。

<発表内容>

発表者氏名	所属	発表テーマ
金光 秀子	山形県立米沢栄養大学 健康栄養学部 教授	「健康な食事(通称:スマートミール)」 認証に向けての取り組み ～地域の食環境整備を目指して～
伊関 千書	山形大学医学部 内科学第三講座 講師	認知症および高次脳機能障害者における 味覚・嗅覚障害
後藤早紀子	山形大学医学部 眼科学講座 助教	0.05%点眼薬による糖尿病黄斑浮腫の治療効果の検討 ～糖尿病網膜症の最新の治療～
吉田 麗娜	山形大学有機エレクトロニクス イノベーションセンター 特別研究員	溶液プロセスによる機能性薄膜の創成と応用
原田 知親	山形大学大学院理工学研究科 電気電子工学分野 助教	アンビエントなライフログデータ取得に向けた取り組み

⑥ 女性研究者の裾野拡大

⑥-1 | JOIN交流会

例年、女性研究者の裾野の拡大を図ることを目的とし、女性大学生・大学院生等を対象とした女性研究者との交流会を実施しており、昨年度は大日本印刷株式会社研究開発センターに所属する女性研究者3名とJOINメンバー（詳細は38ページ参照）、米沢栄養大学の女性大学院生の交流会が開催された。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、交流会は中止された。

⑥-2 | 博士学位を目指す学生のためのキャリア・就職活動セミナー

主に女性ポストドクターや女性大学院生・学部生等を対象に、大学だけに限らず企業の研究職についても知ることで、高い研究能力を生かせる道を探る機会とし、女性ポストドクター、女性大学院生の育成と、博士課程進学への関心を高めることを目的としている。昨年に引き続き、山形大学フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院が主催する「キャリア・就活セミナー」に共催して開催した。

今年度は、新型コロナ感染防止のためにオンラインにて2回開催されたが、大学院生が運営に参画し、充実した内容で行われ、参加者の増加に繋がった。

**進路に悩む学生のための
キャリア・就職活動セミナー**

キャリアセミナーでは、就活指導の経験豊富な講師の方をお招きし就職活動の方法やポイントをご講演頂きます。
卒業生による講演では、産学官の各方面で活躍されている博士5年一貫コース修了生の生の声を聞けるチャンスです!!

キャリアセミナー講師：松坂 暢浩
山形大学学術研究院(学士課程基盤教育機構)

卒業生：フレックス大学院修了生

【日時】2020年7月17日(金)
13:00~13:05 セミナー開催概要説明・諸注意
13:05~13:50 キャリアセミナー
13:50~15:00 卒業生による講演

【場所】Zoomによるオンライン形式(参加URLは参加申込者へのみ通知)

【対象】博士5年一貫コース生、博士後期・前期課程学生、
研究員(ポストドクター)、大学院進学を考える学部生

【事前申込方法】ifront.careerseminar@gmail.com宛 本文に「氏名、所属(専攻)、学年」、件名に「キャリア就職セミナー参加申込」を記載し送信

【問合せ先】フレックス大学院 事務室(1号館102)
内線: 3834 / Email: ifront@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

主催 博士課程5年一貫教育プログラム「フレックス大学院」及び
共催 米沢キャンパスキャリアサポートセンター
文部科学省ダイバーシティ推進政策推進イニシアティブ事務局

1回目チラシ

**博士学位を目指す学生のための
キャリア・就職活動セミナー**

本セミナーでは、博士一貫コースの修了生と就職活動を経験した学生(現D3生)をお招きし、実体験に基づくお声も交えていただきながらご講演いただきます!
卒業生による講演では、産学官の各方面で活躍されている博士5年一貫コース修了生の生の声を聞けるチャンスです!!

講演者
・梅本和輝さん(現D3生)
・宮根聡さん(出光興産株式会社)
・菅野亮さん(スリーエムジャパンイノベーション株式会社)

【日時】2020年11月27日(金)
16:00~16:05 セミナー開催概要説明・諸注意
16:05~17:20 先輩方による講演
17:20~17:30 質疑応答

【場所】Zoomによるオンライン形式(参加URLは参加申込者へのみ通知)

【対象】博士5年一貫コース生、博士後期・前期課程学生、
研究員(ポストドクター)、大学院進学を考える学部生

【事前申込方法】ifront.careerseminar@gmail.com宛 本文に「氏名、所属(専攻)、学年」、件名に「キャリア就職セミナー参加申込」を記載し送信

【問合せ先】フレックス大学院 事務室(5号館4階)
内線: 3834 / Email: ifront@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

主催 博士課程5年一貫教育プログラム「フレックス大学院」及び
共催 「フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院」コース
米沢キャンパスキャリアサポートセンター
ダイバーシティ推進政策推進イニシアティブ事務局

2回目チラシ

⑥-3 | 連携機関留学プログラム

プログラムの目的

本プログラムの目的は、連携機関に所属する異なる研究環境・背景を有する女性研究者、および未来の研究者となりうる学生との交流により、ワーク・ライフ・バランスを保ち、そして成長し続けていくための環境づくりを促進することにある。

開催中止

本プログラムは、大日本印刷株式会社の研究開発センター（千葉県柏市）、つくば総合開発センター（茨城県つくば市）、市谷加賀町ビル（東京都新宿区）の3ヵ所にて実施するものである。これら3地区における新型コロナウイルスの感染者数の状況を鑑み、開催は好ましくないと判断し、今年度の連携機関留学プログラムは中止とした。

7 広報活動等

【ホームページ】

事業の一層の理解と制度の利用促進のため、ホームページの更新を定期的に行った。特にセミナーやシンポジウムの案内に力を入れ、参加を促すためにホームページからWEB申込みが出来るようにした。令和3年1月にホームページのリニューアルを行った。

【ニュースレター】

山形大学男女共同参画推進室発行のニュースレターにはダイバーシティ事業の実施報告なども掲載した。

【パネル展での広報】

山形大学男女共同参画フェスタは、新型コロナウイルス感染防止のため、中止した。

【新聞報道】

女子中高生理系進路選択支援事業について、次の記事が紹介された。

- ・令和2年6月28日 山形新聞
「理工系女子 増加に力 山形大のプログラム採択」
- ・令和2年8月13日 読売新聞
「理・工学部も女子いるよ 高校生に助言、偏見解く」

【全国ダイバーシティネットワーク組織ウェブサイト】

平成30年11月に「全国ダイバーシティネットワーク組織」が設置され、令和元年にウェブサイトOPENeDが開設された。本学の取組が参考事例として掲載されており、「取組事例集2019年」も発行された。令和元年度より、山形大学の女性研究者採用情報をリンクしている。

令和2年度は、本学が東北ブロック南東北会議リーフレットを作成し、南東北ネットワークの構築に努めていることが紹介された。

さらに、今年度は、本学の河合寿子氏（理学部 助教）が、全国ダイバーシティネットワーク組織ウェブサイトのコラム「女性研究者の声」を執筆し、これから妊娠・出産・育児を控える女性研究者や、研究者を目指す女性のロールモデルとして河合氏本人の経験を伝えた（令和2年9月15日）。

<https://www.opened.network/column/column-0025/>

8 評価

8-1 | 外部評価委員会名簿・委員会内容

設置の経緯

山形大学、大日本印刷株式会社研究開発センター及び山形県立米沢栄養大学が共同で実施するダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）事業に関し、外部の有識者から意見をいただき事業をより円滑に実施するために、平成27年11月25日ダイバーシティ事業の代表機関である山形大学にダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）事業に関する外部評価委員会が設置された。

評価委員は、次のとおり（敬称略）。

令和2年4月1日現在

推薦機関	氏名	現職等
山形大学	小館香椎子	日本女子大学名誉教授・電気通信大学特任教授
大日本印刷株式会社 研究開発センター	木村 文雄	近畿大学建築学部 教授
山形県立米沢栄養大学	大泉 享子	山形県労働委員会委員

第1回目の委員会は、平成28年2月24日に山形大学事務局棟第一会議室（山形市小白川キャンパス）において、第2回目は、平成29年2月14日に会場を山形大学男女共同参画推進室米沢分室が所在する山形大学米沢キャンパス（米沢市）に移し、それぞれ開催された。第3回目は、平成30年1月29日に前年と同様に山形大学工学部百周年記念会館セミナールームで開催され、文部科学省による中間評価ヒアリングの報告を行い、これまでの成果を確認し、後半の事業をさらに進展させるためにご意見を賜った。また、時限到来時（原則3年）において内容等を見直すことと規定されている、以下の規程の一部改正措置について報告を行った。

- ・山形大学男女共同参画推進に関する規程
- ・山形大学男女共同参画推進米沢分室規程
- ・山形大学ダイバーシティ連携推進会議規程
- ・ダイバーシティ事業に関する外部評価委員会規程

この結果、外部評価委員会は令和2年度末まで3年間延長して継続されることになり、外部評価委員は「各機関が推薦する有識者2名」から「各機関が推薦する有識者1～2名」に改正され、令和元年度から合計3名の有識者に委嘱することになった。

外部評価委員会の概要

平成30年度以降も連携体制を維持し、基本的な事業を継続しているが、財源による運営になったことから一部見直しを行った。その中で、ダイバーシティ連携推進会議（持ち回り）を平成30年10月23日に開催し、外部評価委員会を持ち回り会議にすることについて協議し、承認された。

1 通知

令和2年12月2日付けで、昨年度と同様に、令和2年度ダイバーシティ事業に関する外部評価委員会（持ち回り）の開催について下記のとおり通知し、外部評価委員に評価書の提出を依頼した。

令和2年度は、3人の外部評価委員の全員が成果報告のためのシンポジウム（11月10日オンライン開催）に参加され、6年間の事業報告について理解を深めていただいた。このたびの外部評価委員会では、シンポジウムの事業報告を資料とし、改めて質疑と評価をお伺いした。

（1）日程

- | | |
|--------|-------------------------------------|
| 12月2日 | 外部評価委員に対して文書による事業報告の提出 |
| 12月21日 | 各委員より評価書を受領 |
| 1月18日 | 質問・意見などに対する回答書を提出
外部評価書を活動報告書に掲載 |

（2）外部評価委員会への事業報告

- ① 6年間の事業報告
- ② 取組事業に対する質疑
- ③ 全体評価

（3）添付資料

資料_令和2年度外部評価委員会_事業報告

2 評価書

令和2年12月に小館香椎子委員、木村文雄委員、大泉享子委員の3名から評価書を作成いただき、受領した。その後、各機関より質問・意見などに対する回答書を委員へ送付するとともに、連携機関で内容を共有した。このたびの外部評価委員会では、今年度で事業期間が終了することから、6年間の事業の成果と今後の継続性に関して幅広い視点からご意見をいただいた。委員の皆様には本事業の目標達成に向けてこれまでの確なご指摘とご助言を賜ってきたことに対し、心より感謝申し上げたい。

3 主な質疑・回答

質疑：小館委員

本プロジェクトの特徴である企業との連携が2つの大学機関および事業全体へ与えた事項および成果について教えていただきたい。

回答：山形大

本事業の企業連携の特色は、サービスデザイン手法を取り入れた研究力の向上やリーダー育成を図る役割を担い、産学連携の研究を促進したことであり、中間評価でもこの点が高く評価されている。

サービスデザインプロジェクト（共創ワークショップ）では、サービスデザインの思考・手法を用いて女性研究者が自ら研究したいと思えるような共同研究テーマを創出することと、プロジェクトをとおして女性研究者の研究力向上を図った。事業の後半では、前半の研究成果を生かし、COIとの共同研究・社会実装に取り組んできた。なお、サービスデザインの研究手法については、人文社会科学部などに普及を図っており、工学部では毎年授業に取り入れている。

自己啓発合宿では、連携機関に所属する女性研究者を対象とし、研究開発能力、マネジメント能力、マーケティング能力を向上させ、女性リーダーを育成することを目的としたセミナーを開催していただいた。参加者には、共同研究代表になって活躍している女性研究者もいる。さらに、交換留学では、女性大学院生が先進企業の研究やそこで働く女性研究者と出会い、女性研究者を目指すことに繋がった。

回答：大日本印刷

まずは、企業と大学機関の研究者との交流により、意識の向上、および視野が広がったことにより研究課題の解決へ向けた考え方、プロセスの選択肢が増え、研究の成果へと着実に結びついているといえる。これは、山形大学における本事業における共同研究の成果でも見て取れる。

また、女子学生との交流にも力を入れたことにより、未来の女性研究者を増やすことに着実に繋がったと考えている。大日本印刷にて主催をした交換留学においては、参加した学生からの口コミにより年々希望者が増え、参加した者の中には、研究者として進むことを決意した学生もおり、効果の高い取組であったといえる。

回答：栄養大

企業との連携としては、交換留学プログラムの実施をとおし、本学学生のDNP訪問や、DNP研究者の本学への受入を行っている。訪問した学生からは、充実した女性研究者への支援体制を目の当たりにして、研究者としての道を歩んでも、ライフイベントで断念されることはないことがわかったなど、社会に出て活躍する自信と意欲が高められたといった成果が見られている。

質疑：大泉委員

今後も研究環境を維持し研究力を強化することを継続し、女性研究者の活躍を支援していき、更に研究成果を発展させ産学連携に結び付けていって欲しい。そのためには、共同研究・プロジェクトをリードするコーディネート能力を強化するための環境整備を進めていくことも重要である。

回答：山形大

共同研究・プロジェクトを推進するコーディネート能力を向上させる場が、COI連携、社会実装会議（国際事業化センター、研究支援課を含む）、地域連携プラットフォーム会議（行政、企業、研究機関、市民など）、全国ダイバーシティネットワーク会議（企業、大学など）だと考えている。特に、COI若手・女性研究交流会や社会実装会議から新たな共同研究を創出しており、今後も充実し

ていきたいと考える。

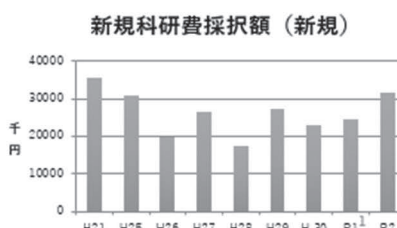
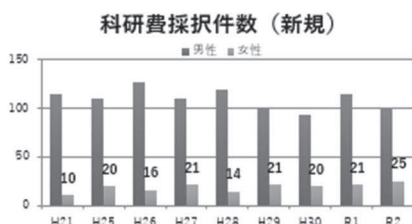
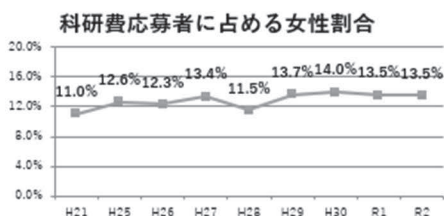
回答：栄養大

本学では地域連携・研究推進センターを設置し、地域連携や共同研究事業に取り組んでおり、女性研究者も積極的に参画しているところです。こうした取組みを更に推進するためにも、コーディネータ能力を高める方策について、連携機関の取組みも参考にしながら検討していきたいと思います。

<質疑：山形大学の科研費の応募件数等の推移>

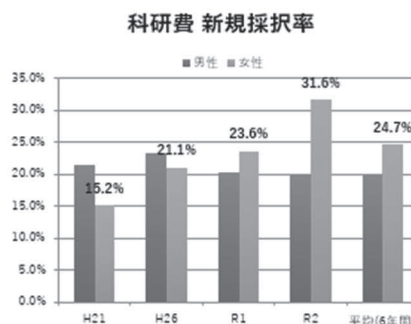
外部資金獲得状況の推移 (1)

女性研究者の科研費応募者数、新規採択件数、新規採択額は横ばい、もしくは微増傾向だが・・・



外部資金獲得状況の推移 (2)

- ・ 科研費新規採択者における女性割合は増加傾向にあり、採択率（新規）は、男性研究者を上回っている。
- ・ 外部資金獲得への応募、さらには、より大きな資金獲得への挑戦を奨励する取り組みが必要。



採択率 = 男女各採択件数 / 男女各応募件数

4 全体評価

小館香椎子 委員

山形大学の優れた研究成果である「有機エレクトロニクス」を活用した未来生活創造への女性研究者の参画をタイトルとして、数代の学長を中心として3機関の連携を牽引し、6年間の地道かつ精力的な事業展開により十分な成果を残されたと高く評価できる。事業後半COIとの連携により、中間評価で指摘された有機エレクトロニクスに関するテーマとの関係性の改善は図られてはいるが、連携機関への波及効果などは未だ達成できていないように思われる。例えば、共同研究成果の学会での発表・採択論文に「有機エレクトロニクスの活用…」などの公刊を期待したいと思う。

一方、山形県内さらに全国的なダイバーシティネットワークはじめ地域連携活動など男女共同参画推進のための活動の牽引の役割を果たしており、この点も大きな成果であると評価する。従って、事業終了後の継続基盤はすでに構築ができていますので、機関からの経費予算と女性研究者の育成強化が当面の課題ではないかと思う。

今後の課題は、女性研究者の活躍のための環境整備とともに、研究能力の向上のための仕組みづくりを連携機関と共に検討することも期待している。それが本来のリーダー育成につながっていくことになるだろう。

木村文雄 委員

3機関が連携して女性研究者の登用増加を目標として、それを推進するための環境整備を進めてきたことは高く評価できる。結果的には初期の目標数値には届かなかったものの、一般教職員への意識づけには貢献したと考えられる。

しかし山形大学での離職調査で女性離職者34名中、23名が他機関で活躍しているという事実は、本人にとっては望ましいことなのかも知れないが、大学にとってどうなのかを検証すべきである。知が流出したことに間違いはないわけで、そのようになってしまう根本原因を調査し解決しない限り傾向は変わらない。

環境整備の面では、山形銀行と山形大学が連携した、企業主導型保育所の設置は意義が高く、今後も推進して欲しい。

またCOIとの連携を推進されたことは高く評価できる。産学官で連携し研究開発から社会実装までを目標としているCOIと連携したことの意義は高く、事業終了後も継続していくことをお願いしたい。

大泉享子 委員

女性研究者が活躍できる環境の整備や関係機関との連携体制の構築が進み、結果として研究力の向上や女性研究者の増、上位職の登用が進んでいることは大きな成果であると思う。

今後も研究環境を維持し研究力を強化することを継続し、女性研究者の活躍を支援していき、更に研究成果を発展させ産学連携に結び付けていって欲しいと思う。

そのためには、共同研究・プロジェクトをリードするコーディネート能力を強化するための環境

整備を進めていくことも重要であると思う。

また、女性の理工系研究者のすそ野である理工系学部生や理工学研究科生を増やしていくことも重要であり、理工系に関心を持つ女子中高生の育成に引き続き力を入れていただくことを願う。